南飛騨 ぼうさいかわら版

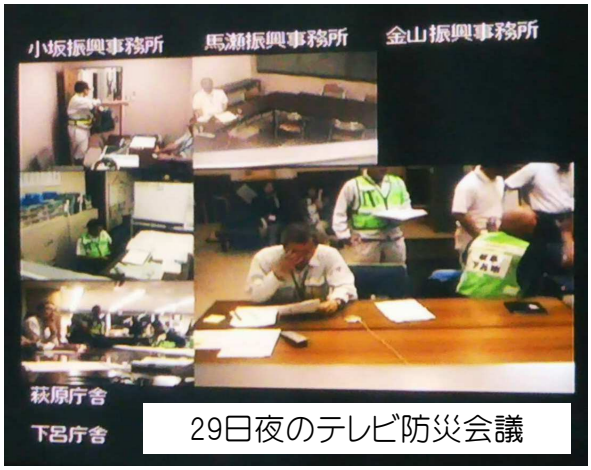
平成30年度役員紹介（敬称略）☆留任　◇新任　（任期 平成30年7月１日～平成31年6月30日）

◇会　長 福澤辰之（中支部長 下呂. 森 区）　◇中副支部長 熊崎明博（下呂. 野尻区）
◇副会長 大石 久　（北支部長 小坂. 赤沼田区）　◇北副支部長 熊崎正佳（萩原. 中呂区）
◇北福支部長 田中　敬（馬瀬. 中切区）
☆副会長 河尻正敏（南支部長 金山. 第２区）　◇南副支部長 亀山丈二（金山. 大船渡区）
☆職員部会長 今井藤夫　（本年度より馬瀬地域からも役員選出で、北支部役員が３名になりました）

平成30年7月豪雨特集

6月29日夜から始まった豪雨に対する緊張は、途中の晴れ間を挟み7月8日にようやくおさまりましましたが市内のいたる所に大きな爪痕を残しました。

幸いにも人的被害はなかったが、いくつかの災害現場ではもう少し降り続いたら、もう少し土石流の規模が大きかったら、もう少し岩屋ダムの大放流が…などと考えると人命に関わる災害なっても不思議はなく、全くの危機一髪で助かった感が否めない場合が数多くあったように思われました。



29日夜のテレビ防災会議

6月29日に落合地区に降った豪雨は、濁河川･小黒川･小坂川からの濁流が護岸を数か所崩しておさまった。 地元のN防災士は「あれだけの濁流は初めて見た」と云われる。

29日に落合公民館へ自主避難した方が11名あり、7月7日の28名を合わせ39名の自主避難者がありました。「負傷者も家屋被害も無く良かった」と、落合区長の Ｉ 氏は安堵されていました。

FB転載
小坂川の濁流

小坂川の護岸工損壊

6月29日の豪雨で流出し漂着した、おびただしい流木群。（下呂門原地区 飛騨川右岸から撮影）
これらの流木はすべて7月7日の豪雨で、あとかたなく流出しました。（7月2日撮影）

6月29日に降った豪雨は、上上呂地区で土石流を発生させ、50戸163名に避難指示が発令されました。 中央用水、高山線を乗り越えて土砂は民家に押し寄せ1階部分を泥で埋めしましたが、お住まいの方は幸いにも、お留守で無事でした。後に下上呂地区にも40戸140人に避難指示が発令され、あさんず会館と星雲会館に避難されて、しばらくの間不自由な生活を強いられました。

土砂は民家に押し寄せ、多い所で1.5m程までに流込んだ

高山線開通後の土石流現場

久野川地区は、国道41号線からの道路が至るところで損壊してしばらくの間不通となった。

谷が敷地の石積を大きくえぐった、久野川地区の民家

民家近くまで達した土石流（金山町福来）

流失した中の田橋（金山町福来）
本流に掛かる橋ではなく支流の橋が流された。
上流の民家数軒が孤立状態となった。

K.I氏提供

金山町金山

濁流の長洞谷、最大水位は更に1m近く高かったと思われます。軒並みに1.5m以上の浸水でした。

K.I氏提供

金山町金山

民家の一階を濁流が貫通しました。
幸い無人であったが、1.7m超の浸水

金山町金山

玄関戸のガラスを水圧で押し破り、濁流と共に流れ込んだ泥とガレキ。逃げ出す時に「畳が浮いて足がふらつき、思うように足が運べなかった」と浸水の恐怖を語られた。

FB転載

金山町金山

奥の部屋で寝ていた男性は「深夜肩に水が浸かって目覚め逃げ出した」「水が引いてから見たら、枕元の家具が枕の上に倒れていた」と驚いておられた。
床上50cm超の浸水で、畳に5cm程の泥が溜まっている。

特定家電集積
テレビ
洗濯器
冷蔵庫
エアコン

金山市民グランドに設けられた災害廃棄物の集積場では、市環境課により種別ごとに分別した置き場が指定されていました。

可燃物集積
近隣住民やボランテイアなどにより、更に仕分けられました。

木製家具集積

S社提供

基礎が流失した民家。金山町　金山

橋が流失して孤立した民家。家人は避難中でした。
金山町　戸川地区厚曽

流失した蛍橋。金山町　菅田川

土石流が暗渠を埋めて冠水した
旧国道256号線。金山町西沓部

FB転載

FB転載

大きくえぐられた関.金山線

高山線は市内で17カ所もの土砂災害が発生し、市内のいたる所で中小河川の護岸損壊. 道路の損壊が見受けられました。

農林水産業では農地の土砂流入. 用水路の埋没. 養殖池の土砂流入 山林崩壊など被災個所は多くの業種に及びました。

山崩れで埋まった農用水路　萩原町尾崎

FB転載

土砂が流込んだ水田　金山町　戸川

土砂で埋まった養殖池　下呂　小川

FB転載

（編集後記）床上浸水の被災者に話を聞いた。 深夜に特別警報の放送も聞いたとのことであるが、避難する発想は無くそのまま寝たとの事。被災者を責めるつもりはないが、防災士として**「特別警報の意味も早めの避難も、被災者に自分の事として伝わっていなかった」**ことに言い知れぬ無力感を感じました。**「自分を守る、自分の為の防災」**を伝える事の難しさを思い知らされた次第です。

掲載の写真は、編集者の撮影以外にフェースブックに投稿された写真を9枚使わせて頂きました。投稿者には許可を得ましたが、コメント投稿に添付された方には直接の連絡が取れませんでした。不特定多数の閲覧を承知してのSNS投稿なので、どうかお許しを頂きたく思います。

（掲載記事随時募集）E-mail tuneki-jh2oqm@ccn.aitai.ne.jp ☎090-2578-1601　広報担当 金子恒紀